

建設防災 ボランティアニュース 第79号

目次

- ・ 年頭の挨拶
- ・ 施設見学会
- ・ 橋と土木展
- ・ 四建現場見学会
- ・ 勝どき橋ミニツアーの再開 他

年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。



新年を迎え、会員の皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。新型コロナウイルス感染は依然として落ち着きを見せず、昨年末から新年にかけては新たな蔓延の兆候もみられており、安心できる状況ではありません。様々な社会経済活動は徐々に再開されては来ておりますが、まだまだ日常生活への影響が大きいものがあります。

昨年当協会の活動も、密を避けるため定例総会を書面で開催したことに始まり、勝どきミニツアーや川の愛護月間など都民を対象としたイベントの中止、縮小などのほか、建設事務所との連携する活動も参加人員や規模の縮小など、大きな制限を受けました。

然しながら、社会は再開に向け動き始めており、コロナ禍においても当協会の役割に期待する声に応え、一日も早く安定的な事業継続を目指していかねばなりません。新春早々には勝どきミニツアーも再開いたしました。そのほかの事業も関係機関と協議して活動の再開を目指してまいりますので、当協会活動の充実に向け会員各位のご理解ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年も引き続き東京都建設局、(公財)東京都道路整備保全公社、(公財)東京都公園協会の当協会への更なるご理解ご支援を賜ります様お願いするとともに、一層のご発展を

祈念申し上げます。また会員各位の今年一年のご健勝をお祈りし、年頭の挨拶とさせていただきます。

令和5年 睦月

東京都建設防災ボランティア協会会長

山口 明



3年ぶりの施設見学会

コロナ禍で中止が続いていた施設見学会を実施することができました。限定30名の募集枠が早々に埋まってしまい、残念な思いをされた会員も多いなか、参加された会員は、久しぶりの現場見学と旧知の方との再会を楽しまれたと思います。

当日わざわざ駆けつけていただいた湯川道路建設部長、及び見学施設を提供していただくとともに、丁寧な説明に加えアルコールの消毒液や横断幕など万全の準備をしていただいた、今宮所長を始めとする第二建設事務所の皆様方には心より感謝申し上げます。

担当理事 久保田元久



トンネル坑口新宿側にて

開通前からこそ見られた！！

久しぶりの施設見学会 環5の1(千駄ヶ谷)、令和4年11月22日火曜日、第二建設事務所が所管する都市計画道路環状第5号の1号線(千駄ヶ谷区間)の施設見学会が開催され、参加してまいりました。当日は気温も湿度も快適な好天の中、会員30名が参加する久しぶりに賑やかな見学会でした。

開会は都立新宿高校横の地上部からで、山口明ボランティア協会会長の開催挨拶に続き、湯川雅史道路建設部長による局側ご挨拶、そして、今宮正純所長の事業概要等のご説明の順で進みました。都会の騒音の中、イヤホン貸与の心遣いもありがたく、その後、渋谷方面に向けトンネル内に移動、水内工事第一課長他ご担当の方々からの現場内のご説明、案内など受けつつ、お約束の記念集合写真の撮影。参加者も終始、説明に熱心に耳を傾けスマホカメラをさかんに施設に向けていました。



渋谷区側歩道橋を解説する今宮所長

12月3日の開通を前に、整備された事業個所の説明の中で印象に残ったことは、新宿御苑への配慮により道路構造を地上地下の二層構造へ平成17年に都市計画変更をおこなったこと、御苑内に群生しているヒノキ科落葉高木のラクウショウ(落羽松)への配慮、トンネル銘板に記された「千駄ヶ谷ぎょえんトンネル」のロゴや名称のエピソード、トンネル内での勾配とカーブと排水の設定方法、渋谷区側に設置されている歩道橋の必要性や附属エレベータの管理主体が都であること、狭い現場内での歩道橋設置における時間勝負と

一部設置ミスでの素早いリカバーなどがあげられます。その他、新宿高校への配慮による防音フェンスの施工上の工夫?や今となっては当たり前の遮熱舗装、排水溝の構造など、開通前ではないとじっくり見たり聞いたりすることができない内容ばかり。大変、興味深い現地見学会でした。



ラクウショウ(落羽松)



新宿高校に配慮した防音壁

参加者の皆様も早い時間から集合し、コロナで中断していた現場見学やお仲間との再会を楽しんでいる様子でした。今まで長く時間が空いてしまい、マスクで覆われた顔半分に、見覚えはあるものの間違っていたら失礼と、話しかけるのにちょっと遠慮がありましたが、声を聴けば、ああやっぱりと安心。やはり、かつて苦楽を共にした方々とお会いするのはいいものだと感じた次第でした。

本見学会にご協力をくださった第二建設事務所、道路建設部の皆様をはじめ、よい機会を作っていただいた本会の幹事の皆様、ありがとうございました。

北北建班 奥秋聡克

環 5-1 雑感 通称道路名は？

今回、渋谷区と新宿区の『環状第5の1号線』が、第二建設事務所今宮所長を始めとして水内工事第一課長などの現職の職員の努力によって、令和4年12月に「開通」する。

この開通前に防災ボランティアの会員に「見学」をさせていただいたことに感謝申し上げます。

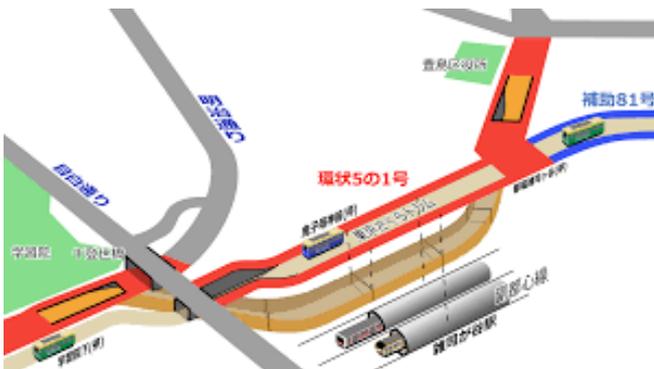
この「環状第5の1号線区間」を「明治通り」という「通称道路名」とするかは判らないが、東京都が設定した「通称道路名」は、昭和37年と38年に69路線の「通称道路」が選定されており、「明治通り」は、この時に公告<都広報号外・号外74>で「公告」されている。

「通称道路」は、昭和59年に「通称道路名」の追加がなされ129路線となって以降、現在は171路線となっている。

昭和37、38年・59年の「通称道路」の設定では、環状第7号線や環状第8号線などが、「環七通り[56]」(〔 〕書きは整理番号)や「環八通り[87]」の名称となったが、「都道名称」までも「環状七号線」及び「環状八号線」と言う名称に変更されるなどとなった。

この「明治通り」は、昭和37年の公告で通称道路名を「明治通り[3]」としたが、元号名称の路線は、「昭和通り[24]<放射第19号線>」と「明治通り[3]<環状第5の1号線>」の2路線だけで、「大正通り」の名称は無く別の名称となった。

今後、新設道路で「平成通り」や「令和通り」などの「通称道路名」が出てくるかは判らないが、「元号の通称道路名」があっても良いと考えている。



今回の「環状第5の1号線区間」は、「主要地方道芝新宿王子線第305号線」の「重複区域決定」となるのか、新たな「都道名称」とするのか、さらには、旧道となる『環状第5の1号線支線』をどのようにするのか、

<1>「都道」のまま道路管理部が維持管理する。

<2>「渋谷区及び新宿区」の協力によって「区道」とする。

この2案があると考えている。

また、その「通称道路名」は、2路線そのまま「明治通り」とするのか、新たな「通称道路名」の公告をするのか、など検討することが必要となると考えている。

現在開通し、「明治通り」となっている区間は、「環状第5の1号線支線」であり、今回本線が「開通」することとなった。

北南建班 新川彰

「東京 橋と土木展」も復活

「東京 橋と土木展」も3年ぶりに復活しました。平成4年11月22日(火)から25日(金)までの4日間、「新宿駅西口広場イベントコーナー」で開催され、10名(舛原、小川、若尾、島津、新川、高尾、加藤昌、高橋紀、佐野克、伊佐の各氏)の会員が参加しました。

久しぶりの活動で、土木技術支援・人材育成センターから要請された枠が埋まるかと心配しつつ、前回の記憶をたどり募集を始めたところ14名の応募がありました。希望時間が重複したため、ご遠慮いただいた会員にはお詫びいたします。

新型コロナの影響で、前回に比べて規模は小さくなりましたが、橋梁以外の展示が新たに加わり充実した内容でした。参加された会員には、1回4時間という長丁場をお願いし、本当にお疲れ様でした。来年の検討課題とさせていただきます。またいろいろご指導いただいた土木技術支援・人材育成センターの皆様には心より感謝いたします。ありがとうございました。

担当理事 川合康文

懐かしい映像に釘付け！

「東京 橋と土木展」の最終日である11月25日の午後に、展示説明(補助)スタッフとして参加しました。私はこの4月に本協会に加入させていただきましたので、6月の西建の道路点検に続き、これがボランティア活動の第2戦となります。

ペアを組んだのは何と佐野克彦さん！本展の初日22日に環5-1の現場見学会があり、終了後に予習がてら会場に立ち寄ったところ、佐野さんも熱心に展示内容を確認しておられ、頭が下がる思いでした。

コロナ禍により3年ぶりの開催となった今回は、これまでの橋梁中心の展示から河川事業や公園事業も追加され、隅田川橋梁のライトアップ、日野橋の応急復旧と架け替え、白子川調節池群、小石川後樂園など、模型や写真パネルを駆使し、大変分かりやすく充実した展示内容でした。

特に、道路管理部保全課の職員が撮影した隅田川橋梁のライトアップの写真群は、橋梁の構造美と光の演出を絶妙に切り取った素晴らしい作品で、撮り手の橋梁愛を感じさせるとともに、写真の完成度もまさにプロ級といっても過言ではないと思います。今後、さまざまな機会にお披露目していただきたいものです。



エントランスと隅田川橋梁のライトアップの写真群

また、映像コーナーでは、勝鬨橋などの貴重な記録映像が繰り返し上映されていました。とりわけ平成26年の築地大橋の桁のフローティングクレーンによる一括架設は、私が五建所長に赴任した直後に携わった事業で、私自身もちらっと写る

場面があり思わず懐かしい映像に釘付けになってしまいました。



築地大橋の桁の一括仮設ビデオ上映

会場には多くのOBの方々も来場され、旧交を温めるとともに、中島都技監もサプライズで来場され、現場スタッフの励みになっていました。運営にあたった土木技術支援・人材育成センターの岡村所長、荒井課長ほかスタッフの皆様にご感謝申し上げます。



荒井課長、伊佐さん、佐野克さん、岡村所長

都市基盤施設も成熟の時代を迎え、こうしたアーカイブの重要性はますます高まっており、展示のさらなる充実が図られることに期待しています。

西建班 伊佐 賢一



小石後樂園の円月橋

四建班 見学会を開催

毎号のお知らせで、各事務所班からの報告をお願いしているところですが、今回四建班から貴重な原稿をいただきました。感謝です。他の班におかれましても、意見交換会等の行事がありましたら、ぜひご一報くださるようお願いいたします。

城北中央公園調節池ケーソンを見た

令和4年11月25日(金)に、3年ぶりとなる現場見学会と意見交換会を実施しました。

実施に先立ち、加藤サブ・リーダーが積極的に調整を行って、香月所長、片岡副所長、土方工事第二課長、神山補修課長の四建幹部が出席してくださいました。

ボランティア協会からは、杉浦顧問をはじめ、四建班の荒井、加藤、黒渕、小林、小山、東、平野、丸山の計9名が出席し、午後2時から4時という短時間ではありましたが、現役とOBとの円滑なコミュニケーションを図ることができ、緊急時の連絡調整にも資する有効な企画となりました。

前日の雨も上がり、晴天の午後、足元も安全で、工事記録ビデオを視聴したのち、戸田建設所長の手慣れた案内に、一同、安心して見学を行いました。

現場は、板橋区と練馬区にまたがる城北中央公園の中、都立大山高校に隣接し、石神井川の右岸に位置した調節池です。区部の降雨強度75ミリに対応し、ケーソン工法により2つの函体を沈設しているものでした。1つの函体の大きさは幅33m、長さ80m、深さ35mの大きなもので、川に沿って長手側を2つ並べ、2mの離隔を取って同時施工しているものでした。見学時は、刃口の中詰めコンクリート打設直前のため、工事用車両も少ない、静かな環境でした。

しかし、ケーソン沈設中には、高校の英語ヒアリングの時間になると、排気音による影響を与えないよう、排土を止めたこともあったそうです。

掘削中は、ダンプ1台分の幅しかない土砂搬出路の狭さにより、工程の制約があったとのことでした。

た。広い現場にもかかわらず、調節池と都立高校との近接は、以外な影響を与えていました。今後、2つの函体をつなぐ管理用通路を施工するため、補助工法に凍結工法を採用する予定とのことでした。現場見学の後、詰所の会議室で意見交換会を行いました。事業計画や工事そのものについての質問もありましたが、防災ボランティアならではの意見も見られました。



第四建設事務所と四建班の皆さん

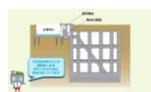
道路通報システムの利用拡大を目指し、もっとPRすべきとの提案もあり、後日、補修課長から送られて来たシステムの案内を、四建班の会員にメール配信したところです。

また、緊急時に豊島区新庁舎の東京都担当者の席には誰が座るのかとの疑問が出たところ、2人の課長さんは、ともに総合防災部の在籍経験者であり、明確な回答が得られました。豊島区新庁舎の災害対策室の東京都席には、総合防災部から派遣されるリエゾンが情報連絡のため座ることでした。

今後、調節池を建設する第二期工事が、第一期工事を上回る規模で発注されるそうです。コロナ禍が終わった時には、まだまだ見学会を実施できる見込みがありそうです。

最後になりましたが、現場で誘導等に当たっていただいた工事第二課の皆さん、お世話になりました。ありがとうございました。

四建班 荒井一郎



5年ぶり勝どき橋ミニツアー

多くの活動の再開が相次ぐ中、勝どき橋橋脚内ミニツアーも再開されました。

ミニツアーは勝鬨橋の補修工事に伴い、平成29年12月に中断し、代替活動として「隅田川著名橋等ツアー」を2年間実施しました。工事の終了に伴い再開を準備した矢先に新型コロナウイルスの感染が拡大し、中断されたまま3年が経過しました。

この間、何度か再開を検討したものの果たせず、ようやく行動制限もなくなったことから、昨年10月に令和5年1月からの再開が決定し、準備をすすめてきました。



再開に当たっての変更点

- ① 1日4回の案内を2回とし、1回あたりの案内時間を60分から90分に変更する。
- ② 案内時間は10時～11時30分、13時30分～15時とする。
- ③ 案内1回あたりの人数を5人程度から10人程度に変更する。
- ④ 案内に当たっては、ヘルメットにスピーカーを装着したメットフォンを使用し、密にならないよう配慮する。
- ⑤ 勝鬨橋ミニツアーガイドブックを改定する。(右写真)



研修会を実施しました

5年間のブランクがあり、新人の案内者も多いことから、研修会を令和4年12月8日と15日の、それぞれ12時30分からと15時からの合計4回、「かちどき 橋の資料館」で開催しました。

当日は合計45名の会員に加え、建設局、道路整備保全公社の皆様方にもご出席いただきまし

た。新井副会長、加藤橋梁構造専門課長、竹澤公益事業課長のご挨拶、公社の担当者、資料館の皆様のご紹介に続き、改定したミニツアーガイドブックの説明、メットフォンの使い方の説明に続き、塗替えで綺麗になった橋脚内を見学しました。



加藤橋梁構造専門課長の挨拶

案内担当の皆様の中断のブランクを感じさせないベテランの、そしてこれからの活動に期待する新人の意気込みを感じる研修会となりました。

いざ再開！！！！！！

平成5年1月12日(木)、いよいよ再開です。日程的に東京都広報でのPRが間に合わなかったため、道路整備保全公社のH.P.だけの募集となりました。当初は午前4人、午後7人の応募がありましたが、体調を崩したなどの連絡があり、最終的に3人と4人という、小規模の案内となりました。



お客様と説明する新井副会長

しかし、小人数とはいえ、もともとミニツアーに興味があり、再開を待ち望んで、情報を常にチェックしていた方もいて驚かされるとともに、ツアーがこのようなお客様に支えられていることを実感し、再開できた喜びを新たにしました。

案内者は第1班の相場さん、大坪さん、東野さん、杉橋さんの4人。たまたま全員がデビュー戦だったため、説明は担当理事が行いました。次回以降、どなたが説明者デビューするか楽しみにしています。

ツアー終了後の案内者で意見交換し、マイクの使い方、説明の方法、案内の手順など、いくつかの改善点が見つかりました。今後さらに意見交換を重ねて、よりよい案内を目指したいと思います。



お客様と案内者 記念撮影

次回以降の案内者の皆様方にはよろしく願いいたします。

担当理事 林 幹生



道路施設等点検のまとめ

多くの事業が中止となる中「道路の施設とバリアフリーの点検」は、規模が縮小されながらも継続的に実施され、昨年度後期にも28名が活動できたことは喜びでした。そして行動制限が解除され

た今年度前期は55名と、例年の数に戻りました。厳しい状況の中、声をかけていただいた事務所の方々に感謝します。久しぶりの活動となった会員もおられるかと思えます。後期の点検もより多くの会員の参加をお願いいたします。

令和3年度後期

事務所	日時	参加者
一建	1/12~1/13	2名
二建	12/15~1/12	4名
三建	1/6	1名
四建	現職のみで実施	-
五建	現職のみで実施	-
六建	12/13~1/18	2名
西建	現職のみで実施	-
南東建	12/16	7名
南西建	現職のみで実施	-
北南建	1/26~1/28	2名
北北建	現職のみで実施	-
合計		18名



令和4年度前期

事務所	日時	参加者
一建	6/28、7/25	2名
二建	7/11~7/26	6名
三建	7/24、8/10	2名
四建	6/21、26、7/7、14	7名
五建	7/25~29	5名
六建	6/24、7/1	3名
西建	6/21~7/21	4名
南東建	7/27	9名
南西建	6/30、7/20	9名
北南建	6/30、7/6、11	3名
北北建	6/17	5名
合計		55名

担当理事 河合康文

どうするボラ協

行動制限がなくなり、いくつもの活動が再開されましたが、新型コロナの感染は未だ収まらず、「感謝の会」、「初動対応訓練」が中止となるなど、不確定な要素は沢山あります。こうしたなか、今後の活動が順調に行われるのかについては不安もありますが、開催されることを信じて現段階での予定を紹介します。

- ① 防災講習会を、来る3月9日(木)に開催することで西多摩建設事務所と調整中です。昼過ぎに都庁前を出発し、砂防ダムを視察して、夕方出発地に戻る行程で検討しています。詳細が決まりましたら改めてご案内いたします。ご期待ください。
- ② 平成5年度定期総会については、状況が許せば5月の連休明け以降の開催を目指しています。今後、決算と予算の策定、事業概要の編集、総会の開催準備等を進めてまいります。開催が決まりましたらお知らせします
- ③ 平成9年に設立したボラ協は、昨年、平成4年で25周年を迎えましたが、コロナ禍で記念行事も開催できませんでした。1年遅れになりますが、定期総会が開催された場合は、記念式典を予定し、併せて25周年記念誌を発行します。既に実行委員会を立ち上げ、具体的な検討に入りました。ご意見等ございましたら寄せください。
- ④ ADVニュースは今年も不定期の発行になると思われれます。発行するためには記事が不可欠です。このため新たな企画も検討中ですが限界もありますので、会員の皆様の投稿が頼りです。ボランティアをした、ボランティアにお世話になった、ボランティア活動について意見があるなどなど、何でも構いません。沢山の方の投稿をお待ちしています。



協会からのお知らせ

- ① 前号で島津哲也さんの所属を四建班と紹介しましたが、三建班でした。お詫びするとともに訂正させていただきます。
- ② 各班の活動報告をお待ちしています。下記編集担当理事又は林まで連絡願います。林アドレス(hayashi471@nifty.mbr.com)
- ③ 協会のH.P(東京都建設防災ボランティア協会掲示板)には、最新の情報、ニュースのバックナンバー、建設局報などが載っています。アドレス(<http://tokyo-adv2.info/>)

編集後記

昨年10月の前号発行に続き、今年度は2号目を発行することが出来ました。今回は最近入会された会員に原稿をお願いしたこともあり、掲載した報告からは、ようやく活動に参加できた喜びと、旧知の方との再会の嬉しさが溢れているように感じました。

未だ感染は収まらないものの、ウイズコロナの世界に変わりつつあり、先が見えてきました。今年こそ年間4回の通常発行に戻したいと思っておりますので、ご協力よろしく願いいたします。(MH)

発行人 山口 明

発行 東京都建設防災ボランティア協会
新宿区西新宿 2-7-1
小田急第一生命ビル 20F

(公財)東京都道路整備保全公社内
編集 加藤基雄、佐野正生、高橋紀男、林幹生

